

漢方の製法活かし「ドリンク原液」発売

山形市の(株)萬屋薬局は、赤のクラフトコーラと黄のジンジャエールの原液シロップを発売した。「冷やして飲んで胃腸に優しい」がコンセプト。創業1877（明治10）年の老舗漢方薬局。「伝統とは革新の継続なり」を営業方針に、地域住民の健康づくり、まちの賑わい創出に取り組んでいる中村妙子代表取締役社長にインタビューした。



クラフトコーラとジンジャエールの原液シロップの完成発表会が開かれた（7月1日、山形まるごと館紅の蔵「Bubula」）



漢方の製法を生かして開発した2つのシロップ。ボトルにはそれぞれの色を代表するハイビスカスと紅花のモチーフを描いている



受け継がれてきた自然の力「萬屋屠蘇散（とそさん）」

—漢方薬局らしいオリジナルの原液シロップを発売しました。紹介してください。

そのまま飲める赤いクラフトコーラは2022年夏から、当社が七日町で運営する「Pinus（ピノス・ラテン語で松の意）カフェ」で、メニューとして提供してきました。

「自宅でも飲みたい」「知人に贈りたい」という声をいただき、3年間かけて手軽に割って楽しんで飲める原液を開発しました。天然色素ハイベスカスの鮮やかな赤色が特徴的で、ミネラルを豊富に含み、疲れた時にスッキリします。

黄のジンジャエールは、蒸した生



株式会社 萬屋薬局

本店 山形市六日町2-3 ☎023 (623) 1805

Pinusカフェ 山形市七日町1-2-35 ☎023 (676) 7425

七日町店に併設された健康づくりの拠点「Pinus」。薬の待ち時間や商店街の休憩に気軽に立ち寄ってほしいとカフェをオープンした

姜を乾燥させた赤乾姜^{あかかんきょう}をたっぷり含んでおり、鮮やかな黄色は山形の紅花を使用しました。2本とも屠蘇散^{とそさん}をベースに、10種類以上の自然素材を使用し、当社で受け継いできた漢方の製法を参考にしています。

屠蘇散は中国の三国時代の名医華佗^だの処方と言われています。日本では平安時代から正月に屠蘇散を飲むことが健康長寿を願う宮廷行事になったそうです。「蘇」は鬼のことで、鬼を屠^ほる（抹殺する）という意味です。「災いをもたらすことのないように」と江戸時代には一般に普及し、元旦に酒に浸した「屠蘇酒」を年少者から順に飲用すると、家中の病邪^{びょうじや}を払うとされ、無病息災と長寿を祈る健康習慣になっています。当社では香りの良い山椒、シナモン、フェンネル、陳皮^{ちんぴ}（みかんの皮）、クローブなどをベースにして、無病息災を願い正月のお屠蘇としております。

—漢方薬の提供から健康づくりまで150年余に上る歴史です。

明治10年に初代中村松太郎が創業しました。明治44年の山形市北大火で創業当時をうかがい知る史料は焼失していますが、万病に効く、すべての薬がそろうという二つの意味を込めて「萬屋」の屋号を用いたと伝わっています。

松太郎は明治2年に、貫津村（現・天童市貫津）の私塾「格知学舎」の門人を通して、幕末から明治期にかけた漢方の大家浅田宗伯^{あさだそうはく}の高弟らと触れ合って漢方の研究に明け暮れたと伝えられています。

創業当時は初代県令三島通庸の道路開削が端緒に着いたばかりの頃で、松太郎は漢方薬仕入れのため徒歩で山形―仙台間を往復し重い荷物を運びました。当時の漢方薬は仕入れてから刻むものだったため、日中は薬を販売、夜は生薬を砕き、粉末にする器具「薬研^{やげん}」で遅くまで作業していたようです。代金の支払いが確かだった松太郎は卸問屋からの信頼が厚く、市北大火の後も商品の仕入れには困りませんでした。そんな松太郎を支えたのは2代目を引き継いだ長女アサ。さらに三女ヨネは帝国女子薬学専門学校で学び、当時珍しかった女性薬剤師としてアサと共に店を支えました。

太平洋戦争末期には金属類の回収で、土蔵の鉄格子も供出しなければならず、3台あった薬研のうち1台は事業継続を訴えて何とか残すことができました。戦後はアサの長男が22歳の若さで3代目を継ぎ、日本を代表する漢方の大家・藤平健先生に学びました。

—山形で初めて「医薬分業」を実



創業以来、現在も使われ続けている百味筆筒（ひやくみたんす）（左）と生薬を砕き粉末にする器具薬研（やげん）（右）

150年余の薬局の歴史を今に伝える
金看板（一部）



初代中村松太郎が「格知学舎」の門弟と共に研究した漢方処方解説書。「傷寒論」は伝染性の病気の治療法などが記述されている



✓
施しました。
1955年（昭和30）年に合資会社組織変更。75（同50）年に大沼店を開設。78（同53）年に、それまで培ってきた豊富な知識、技術、経験をもとに、医療機関の発行する処方箋を広く受け入れて調剤を行う、県内初の調剤専門薬局（山形調剤薬局）を設けて、本格的な「医薬分業」を始めました。以後、六日町の本店を含めて8カ所で薬局を構え、お薬の安全管理と適切な情報提供について、お客さまの信頼をいただけるよ

う日々業務に取り組んでいます。
—2020年6月に、七日町に新店舗をオープンしました。
旧大沼本店閉店に伴って、隣接する空きビルを購入し、大沼店内の七日町店を移転しました。調剤薬局に訪問看護ステーション、ケアプランセンター、大通りに面した1階には、コーヒーやオリジナルハーブティー、健康的で美味しい食事や薬膳を楽しむことができるカフェ「Pinus」を併設しました。乃し梅本舗佐藤屋さんの店も入っています。
地域に根差して150年余。「健康サポート薬局」として地域の方々の健康づくりを積極的に応援しております。会員制の季節の薬膳を楽しむ会「カーサマス・ラボ」や、健康運動指導士による健康アップ教室、野草園ウォーキング、薬剤師による健康チェック、お薬相談に加えて、在宅の相談や管理栄養士による栄養相談を行っています。
さらに、健康に関する有益な情報をお届けする季刊紙「くるみ」の発行、町内会や地域の事業所とタイアップした薬剤師による健康講話・健康チェック・お薬相談や、献血サポーターとして「企業献血」など献血の支援を行っています。これからチームワークで皆さまの健康づくりをお手伝いいたします。

健康サポート薬局として地域の方々の健康づくりを積極的に応援しております。会員制の季節の薬膳を楽しむ会「カーサマス・ラボ」や、健康運動指導士による健康アップ教室、野草園ウォーキング、薬剤師による健康チェック、お薬相談に加えて、在宅の相談や管理栄養士による栄養相談を行っています。
さらに、健康に関する有益な情報をお届けする季刊紙「くるみ」の発行、町内会や地域の事業所とタイアップした薬剤師による健康講話・健康チェック・お薬相談や、献血サポーターとして「企業献血」など献血の支援を行っています。これからチームワークで皆さまの健康づくりをお手伝いいたします。